

尼崎市立図書館設計計画と新日本建築家集団大阪支部

—新日本建築家集団（NAU）の活動について—

A study on the Library Amagasaki-City designed by NAU Osaka

—Design Activity of NEW ARCHITECT'S UNION OF JAPAN—

船曳 悦子

Etsuko FUNABIKI

Abstract

The New Architect's Union of Japan (NAU) was established on June 28, 1947. After that the New Architects' Union of Japan Osaka branch was established in November, 1947. The Culture hall Amagasaki-City and the Library Amagasaki-City were designed by NAU Osaka branch. At first the Amagasaki-City was designed for circular building. After all, it was not materialized. The plan was meaningful, if Amagasaki-City that aimed at the improvement of education and culture of the citizens in that time designed library as the symbol. The designs of the Culture hall Amagasaki-City and the Library Amagasaki-City were one of the new subjects in the postwar that had the significance for NAU. It was improvement of culture.

Keywords: 戦後初期日本 戦後復興 公共建築 建築運動

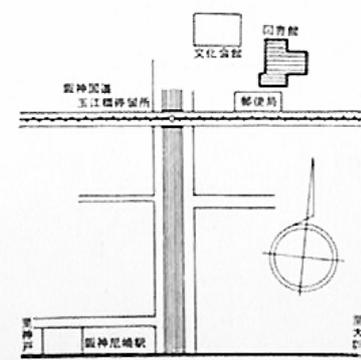
はじめに

尼崎市立図書館（以下、「図書館」と略記、【写真1】）は、兵庫県尼崎市昭和町2丁目73番地、1959（昭和34）年に建設された公共建築で、1階には児童閲覧室、2階には一般閲覧室、学習室などを備えていた。新しい図書館（現 尼崎市立

中央図書館、兵庫県尼崎市北城内27）の新築にともない、1990（平成2）年3月13日に閉館され、その後取り壊されている。同敷地には1955年に建設された尼崎市文化会館（以下、「文化会館」と略記、【写真2】）があった。文化会館もまた、新しい会館（現

尼崎市総合文化センター）の建設により、1979年3月末に取り壊されている。両建物とも新日本建築家集団大阪支部（以下、「NAU大阪支部」と略記）の設計であった。

新日本建築家集団：NEW ARCHITECT'S UNION OF JAPAN（以下、「NAU」と略記）は、戦後初期の建築運動団体の一つで1947年6月28日に「日本造形文化連盟」と「日本民主建築会」を中心に設立され、実質的な活動は1947年から1951年までとされている。文化会館は1955年竣工、図書館は1959年竣工であり、いずれも「NAU崩壊」¹⁾後とされる1951年以降に「NAU大阪支部」によって設計されたものである。それゆえ「NAU



【図1】 尼崎市立図書館と
尼崎文化会館の位置
所蔵：尼崎市立地域研究史料館



【写真1】 尼崎市立図書館
所蔵：尼崎市立地域研究史料館
総工費 22,795,010円、延面積1,234㎡
構造 鉄筋コンクリート
2階建・書庫3階建
起工 1958年10月13日
竣工 1959年3月30日
設計 新日本建築家集団大阪支部
管理 尼崎市建設局建築住宅課第一係



【写真2】 尼崎市文化会館
所蔵：尼崎市立地域研究史料館
総工費 1億円、延面積 861.82坪
構造 鉄骨・鉄筋コンクリート
2階建・一部3階建
起工 1955年1月8日
竣工 1955年12月14日
企画 尼崎市社会公共福祉施設対策協議会
設計 新日本建築家集団大阪支部
管理 尼崎市建設局建築住宅課第二係

崩壊」が示す意味について再検討すると同時に「NAU大阪支部」の設計活動に注目するために、本稿では、図書館の設計計画及び設計体制の実態を明らかにしたい。

そこで以下では、図書館の設計計画がNAU大阪支部に依頼されるきっかけとなった文化会館の設計計画を概観し（第1章）、図書館設計計画の初案である尼崎市建築課の円形案（第2章）、NAU大阪支部の案（第3章）に注目する。そして、これらの設計計画がなされた背景を探るためにNAU大阪支部（第4章）、戦後復興期の尼崎市（第5章）の状況を踏まえ、図書館設計計画の意味を考察する。

なお、資料調査に関しては、尼崎市立地域研究史料館、尼崎市立中央図書館、尼崎市議会図書館を対象に行った。また、当時のNAU大阪支部の関係者、尼崎市建築課職員、文化会館職員、図書館職員にインタビュー調査を行った。

1. 尼崎市立図書館設計計画までの経緯

図書館の設計計画をNAU大阪支部が担当することになった経緯については、1955年竣工の文化会館設計計画の実績によるものであったと推測する²⁾。文化会館については、別稿³⁾で詳述したので、ここでは概観のみにとどめたい。

文化会館の設計計画は、1953年4月1日の市が設置した「尼崎市社会公共福祉対策協議会」（以下、「協議会」と略記）の設置に始まる⁴⁾。この協議会の構成メンバーは尼崎地方労働組合連絡協議会、尼崎地方労働組合協議会、総評尼崎地方評議会の代表、参与、市の関係者、約20人であった⁵⁾。文化会館建設

に至る三つの観点「全市民が等しく要望する施設、全市民が等しい立場で利用できる施設、尼崎市に必要欠くべからずものでありながら現存しない施設」⁶⁾により、1953年10月7日の臨時市議会で文化会館建設が決定した⁷⁾。建設資金は1952、53年度分の市民税5%、約7,500万円であった⁸⁾。

文化会館の設計案は、初め尼崎市建築課によって作成され、協議会において「設計図は公募によることも考えられる。」⁹⁾とし、その結果、市から「1 一般から懸賞公募する方法。2 専門家に依頼する方法。3 建築課において作成する方法。」¹⁰⁾が提案され、設計競技が行われることになった。設計条件は以下の通りである。「市庁舎の予定地を空けておくこと。建築予算80,000,000円で1,800名収容可能であること」¹¹⁾。審査員は岸田日出刀（東京大学）に依頼された¹²⁾。

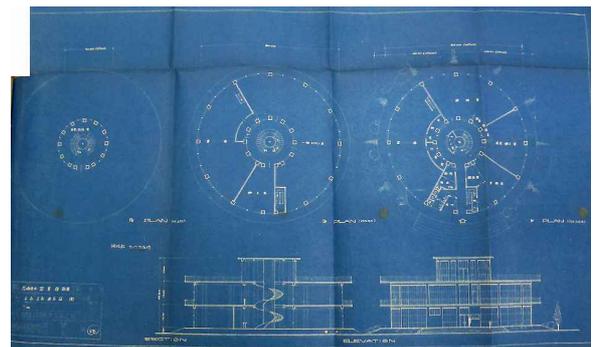
設計競技提出案（【表1】）のうち、NAU大阪支部関係者の提出案は10案中6案であった。審査の結果、NAU大阪支部の今西茂雄案の採用が決定した¹³⁾。NAU大阪支部は、設計競技に参加する前に、第1回設計協議打合せ会を開き「当選したときは当選案を中心に実施設計を全会員が参加して共同設計を行うこと」¹⁴⁾としていた。それゆえ当選案に配慮しながら宇都宮隆夫が図面をかき、構造計算は松原（大阪市立大学工学部）が手がけた¹⁵⁾。施工は大藤組であった。そして、文化会館は1955年1月8日起工式、12月14日落成式を迎えた。

2. 尼崎市立図書館の円形案

文化会館竣工から2年後の1957年11月5日、『市報あまがさき』には「市では工都の新しい文化センターとして玉江橋東詰文化会館の南側に円形で鉄筋三階建の図書館を建てることになりました。10月31日市議会の議決を経たので工費1630万円で工事にかかり来春には完成の予定であります」¹⁶⁾との記事が掲載されている（【表2】）。図書館の円形案がいつごろから計画されていたかについては定かではないが、円形図書館の図面（【図2】）を描いた辻柏氏は「図書館側の要求により、当時の雑誌『新建築』か『建築技術』の円形の建物を参考にした」¹⁷⁾と述べている。円形図書館が考えられた理由として次の二つが考えられる。一つ目は、図書館長・山下栄（1907-79年）の円形図

【表1】 尼崎市立文化会館設計競技提出案

場	暗号・提出者・提出パス	暗号・提出者・提出パス
東京都千代田区四番町六	1953 山形市藤藤町 羽田雄斗夫事務所	
K.K.T.D.C. 建築設計事務所 相原武		
89	カモメー2 大阪市北区西堀町 大阪市大理工学部 建築学教室 石村勇二	
神戸市灘区旗塚通り6-15 宇都宮隆夫 新日本建築家 集団会員		
独	平	
京都市左京区松崎 京都工業建築大学 工学部建築 工学教室 NAU京工班 石原正雄 田村郁夫	京都市左京区 吉田東町 京大工学部建築学 教室 NAU京大班 西山利三・京大教授 扇田信 他1名	
K.N. 大阪市北区多田町11 新日本建築家集団 大阪支部 高岡建設社 K班 飯田清次郎	実 大阪市北区 曾根崎中1丁目3-3 今西*の*の* 今西茂雄・日野孝郎	
棋	東	
大阪市東区南本町3 市田ビル3階 小河建築事務所 ※ぜひ見てもらいたいと申し出た案	小河建築事務所 ※ぜひ見てもらいたいと申し出た案	



【図2】 尼崎市立図書館円形案 所蔵：尼崎市立地域研究史料館

尼崎市立図書館設計計画と新日本建築家集団大阪支部

[表2] 尼崎市立図書館建設経緯

年	事項	典拠
1946.6.20	城内小学校で開館。閲覧料改定：大人10銭、児童5銭。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1947.6.26	閲覧料改定：大人20銭、児童10銭。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1947.8.14	市内事業を対象とした巡回図書館を復活。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1947.2.1	館外帯出閲覧規則を公布。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1948.4.1	閲覧料改定：大人2円、児童1円。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1948.8.16-1955.7.8	館長事務取扱：柳川庄造（1952.6.1より館長）	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1951.3	旧市庁舎（南城内196番地）の2階（809㎡）に移転することに決定。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1951.4.4-30	休館して移転。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1951.5.1	開館。閲覧料：無料	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1952.6.1	市広報車「うぐいす」号により巡回活動を開始。開架室を設ける。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1955.7.8-9.12	館長事務代理：吉田辰之助	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1955.9.12-1956.8.1	館長：岸野市五郎	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1956.8.1-1958.6.30	館長：松村孝三郎	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1957.10.22	議案第71号：小・中学校の新増設工事費、道路工事費、河川浚渫改良費、消防施設整備費、7/170・セキ建設費、図書館移転建設費、塵芥処理費、南部水害対策事業費および失業対策事業費等81,833,000円を追加しようとするものでございまして、普通会計におきまして歳出追加額1225,722,000円、総計におきまして3,282,104,000円とある次第でございまして。	尼崎市議会『第18回尼崎市議会定例会会議録（第一号）』1957年10月22日
1957.11.5	円型鉄筋3階建の計画 文化会館の南に図書館移転：市では工都の新しい文化センターとして玉川橋東語文化会館の南側に円形で鉄筋3階建の図書館を建てることになりました。10月31日市議会の議決を経たので工費1630万円です。現在には完成の予定であります。	『市報あまがさき』1957年11月5日、第172号、第1面
1957	尼崎市立図書館新館：平面、立面、断面図（案）1/200/係り：辻柏	尼崎市建築課 作成：辻柏
1957.11.8	尼崎市立図書館新築工事/上記のことについて機型作成致します。(1)：表記図書館新築略設計（本設計は発注の見込み）完了致しましたが、これが採用して居る円型構造は本市に於いて初めての試みであるので機型を作成の上検討したい尚 機型制作専門店である、芦屋市山根工務店より別紙の見積を差し内容検討の結果安当と思われるので至急作成して下さい。記/請負業者 芦屋市岩園町140 山根工務店 山根誠/制作金額 18,000円 昭和32年12月27日/制作期日 発注日より約2週間/支出費目 教育費、図書費、需用費、設備費/機型大さ 1/200/起案者：辻柏	尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1957.11.8	見積書 山根工務店：縮尺1/200にて尼崎市立図書館外観を機型化致します。使用材料は石膏を主材とし、アクリライト、セルロイド、金属線等適宜併用致します。(中略) 機型簿（約250×250×30）(省略)	尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1957.11.22	尼崎市立図書館新築設計委託の件/上記のことについて伺います。(2)：範囲にて設計を委託してよろしいか。記/1.設計範囲は実施設計及構造設計（設計図、構造計算書、内訳明細書）共とし、設計完了の原図一切は本市に於いて所有する。又、附帯工事設計も同じ。2.設計委託算定内訳（建築坪数 約336,151坪）3.設計図面の写真真実交付。製本（仕様書印刷）は本市で発注する。4.設計期間は請負提出の日より30日以内とする。5.設計委託請求書は設計完了後、受理する。6.立地情報より設計を承認された時は、図文記載の請求書提出すること/以上/起案者：辻柏	尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1957.12	尼崎市立図書館設計委員会設立：1957年末ごろから、尼崎市より図書館の設計の依頼を受けたので、同年12月に「尼崎市立図書館設計委員会」を設立して、たびたび会議を開いて設計を進めた。荒木正利、後藤撰二、飯田清次郎、中村、田代正尚ら数十名が参加して、この共同設計の経験を活かす会や工事中の見学、懇親会を、もちながら、この共同設計の意義について討論していった。	松井昭光、浦水英司『戦後の建築運動史 通史における25年の歩み』1971年
1957.12.12	尼崎市立図書館基本設計に参加下さい：急告しました尼崎市立図書館の設計について、その基本設計を大至急まとめることになりました。そこで尼崎市へ行って現図を見、又図書館見に来て、いろいろ条件を定めました。下記のような設計要項のもとに案をまとめて、来る12日の設計委員会に持ち寄り、皆で検討し、基本設計をまとめていただきます。/設計要項1.建坪245坪程度 設要室坪（見当）一般閲覧室60、開架室40、児童室30、予備室15、書庫100、カード室10、事務室20、作業室15、郷土室25、宿直・階段室・倉庫・その他30/2.2階建（一部3階建も可）将来3階に増建可能なようを考へること。R.C造でも鉄骨でも可。/3.特に次の点に注意 防音装置を考へる。夜間照明を考へる。下駄・外土の置場を考へる。入場人員500/日、事務員14人 蔵書8万冊 年間4000冊増加 スピーカー各室に装置風向・夏は南風。/4.設備 給排水、ガス、電気、リフト（書物運送用）/5.設要図面 プラン1/200 エレベーション1/200（2面） セクション1/200 配置図1/600/議題 各自略案持参の上、検討し、基本設計をまとめる。	尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1957.12.20	あれこれ 変形建築：近ごろ学校や図書館など風変わりな建物が増えています。市教委は円形3階建の図書館を建てる計画をたてているが、東京の日比谷図書館は一边60米の正三角形、地3階、地下1階の建物 大阪八尾市の南山小学校は八角形、2階建てで394坪、中央にらせん階段、2階にペラダ式の回路がついている。埼玉県秩父市の高級中学校は六角形の教室で155坪の建物、通風、採光がよく普通教室にくらべて空間の変化が気分転換ができやすく学習率がよくあがることとあります。	『市報あまがさき』1957年12月20日、第175号、第1面
1958.1.7	図書館建築設計審査委託/上記のことについて審査を委託します。(3)：図書館建築について設計は日本建築家集団大阪支部に委託して居りました此の程 基本設計の90%提出されましたが図書館設計と充分たる機能発揮することは勿論 建設地は市の中心部（文化会館、琴秋園）に依っている関係上 基本設計の検討が必要であるため之が審査及指導を其の筋の権威者である 大阪市立大学教授 滝澤真弓氏に委託して宜しいか。/道 之に要する謝礼品料として10万円相当の品物を支出願望致したる併せてお伺ひします。/起案者 高橋健三郎	『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958.1.7	見積書 一、金45万円也 但し尼崎市立図書館新築工事設計委託料/一、提出額一、設計原図一式 2.構造計算書一式 3.工事内訳明細書一式 4.工事仕様書一式 以上右の通り見積り致します。 昭和 年 月 日 新日本建築家集団大阪支部 設計委員会代表者 中村綱 尼崎市長薄井一哉殿	『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958.2.18	尼崎市立図書館設計について/上記のことについて本設計に着手します。(5)：基本設計14案を大阪湾風引教授に審査を依頼し、その中より、4案を選び、これらを、折衷し且つ図書館側の希望も入れ、再度検討した結果、別図の基本設計が適当と思われまので、本設計に着手します。/起案者：田代正尚	『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958	尼崎市立図書館新築設計案：配置図1/400、1階平面図1/200、2階平面図1/200	尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958	旧市庁舎図書館は第2版神国道建設に伴い立退くこととなり、新館の建設を決定（薄井市長）	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1958	契約書：一、設計委託料 金45万円也（中略）甲 尼崎市長薄井一哉、乙 新日本建築家集団大阪支部 設計委員会代表者 中村綱	尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958.3.1	事務所を旧市庁舎に移す（1959.3月末まで）。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1958.4.1	金葉寺小学校講堂（9月より音楽室）において臨時開架室を開設する（1958.3末まで）	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1958.4.3	尼崎市立図書館新築工事に伴う地盤調査工事/上記のことについて早急に入りに付し着工します。(4)：(省略) 起案者：田代正尚	『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958.6.5	尼崎市立図書館新築工事/上記のことについて早急に入りに付し着工します。(6)：記/設計予算総額 23,269,000円 内訳 建築工事（敷地造成、書架設備を含む）19,869,000円 別途工事（電気、給排水、瓦斯設備を含む）3,400,000円/起案者：辻柏	『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958.6.18	請求書：一、金45万円也 新日本建築家集団大阪支部 設計委員会代表者 中村綱	尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958.6.19	尼崎市立図書館新築設計委託の件：上記のことについて裏面の通り委託支出図面を/請求者 新日本建築家集団大阪支部 設計委員会 代表 中村綱 昭和33年7月11日/設計委託料 450,000円/上記図書館設計委託も本年6月18日に完了致しましたので寄金先より支出して下さい。/支出費目 歳入歳出外現金 寄宅金 教育事業費	尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958.9.24	尼崎市立図書館新築工事入札結果表：柄谷工務店19,000,000円(落札) 森本工務店19,200,000円 中井/中井19,250,000円 大藤19,380,000円 中田建設19,500,000円 松田建設19,600,000円 高岡組19,400,000円	『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958.9.30	工事着手：工事着手日/一、工事名称 尼崎市立図書館新築工事 一、建築位置 尼崎市 一、着手年月日 昭和33年9月30日 工事着手日いたしましたから御礼致し致します。(中略) 柄谷工務店	尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新築工事）』1958年
1958.10.13	昭和通2丁目73番地を運び建築に着手。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1958.10.14-1967.6.30	館長：山下栄	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1958.10.20	新図書館完成は明三 鉄筋で文化会館前広場に：市立図書館の新築工事が明春3月完成を目ざして5日起工から超特急で始った。場所は昭和3丁目文化会館前の広場。建築敷地は1112㎡、鉄筋コンクリート造り2階建て（書庫は3階）で総工費1900万円。1階には児童閲覧室（56席）、特別閲覧室（10席）のほか郷土室、新聞閲覧室、会議室、館長室、宿直室、倉庫、便所など2階は一般閲覧室（184席）学習室（85席）と図書5000冊を備えて自分の読みたい本を勝手に取り出して読むことのできる開架室 書庫は72000冊の蔵書を取壊できる3階建。第2版神国道の建設のために一時間閉。金葉寺小学校で緊急の仮設図書館で長らく不便をかかっているが新築落成の上は文化会館の隣り文化センターとして交通は至便で環境もよく、居は気を移すたんとさ諸君もーだんとと激しくしよう	『市報あまがさき』1958年10月20日、第195号、第2面
1959.1.20	図書館目下急いです 三月には竣工、五月に再開：文化会館前に建設を急いでいる市立図書館は、12月26日コンクリートを全部打ち終わって、総工費7割達成、最後の仕上げ急いです、3月末にはでき上って、立派な文化の殿堂をみなさまの前にお目見えすることになります。その後1月間を図書館の搬入整理備品の整備について、5月から370坪14室の大図書館が一般に開放されます。新図書館の特徴としては、ただ本を読むだけの場所としてでなく市民のいこいの場として気やすく集ってこられるよう、特に配慮して開館時間を夜8時までと映画会やレコードコンサートなども随時開くとともに、奉仕活動をいっそう充実させる予定です。	『市報あまがさき』1959年1月20日、第201号、第1面
1959.3.30	新館舎竣工。のべ収容1,234㎡、工事費22,795,010円。	
1959.4.7	竣工式	
1959.4.5	移転の図書館落成 児童館らは17日に開館	『市報あまがさき』1959年4月5日、第206号、第2面
1959.4.17	一部開館。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1959.4.20	新設図書館のテープ切る 児童室によるごぶ市長	『市報あまがさき』1959年4月20日、第207号、第1面
1959.5.5	市立図書館新装になってお目見え：文化会館前に新装をこらした3階建のスマートな建物、これこそは市民の皆さま、わけても知識欲あふく青少年諸君が待望した新市の市立図書館です。(中略) 去る4月7日竣工式、同17日から暫時的に開館、本月下旬に開館式典を挙げて全面的に市民の利用に供される。(略)	『市報あまがさき』1959年5月5日、第208号、第1面
1959.5.20	市立図書館写真紹介 来月17日から開館 開館時間9時からその時まで	尼崎市『市報あまがさき』1959年5月20日、第219号、第1面
1959.6.16	開館式を挙行。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1962.3.30	自動車文庫車納入。車庫完成。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1962.5.17	自動車文庫車「きぼう」、市民サービス開始。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1966.2.20	自動車文庫車「きぼう」2号納入される。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1966.5.18	自動車文庫車「きぼう」2号、市民サービス開始。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1967.7.1	館長事務代理：小宮山正（1968.4より館長）	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1970.9.10	自動車文庫更新車「きぼう」1号納入。2,436,000円。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1974.3.26	別棟書庫完成。36㎡55。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1974.9.6	新設図書館計画委員会設置。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1975.8.1	玄関受付業務を廃止。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1976.3.9	自動車文庫用購入新車「きぼう2号」始動。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1978.3.20	文教委員会、北部図書館建設を含む教育関係予算案可決。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1978.8.11	北部図書館地盤調査。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1979.3.13	文教委員会、図書館設置条例可決、北図書館と決まる。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1979.6.1	北図書館開館式。館長、藤井千年	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1979.6.5	北図書館で貸出業務開始。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1980.4.5	総合文化センター文化ホール建設に伴う図書館改築工事開始(4月30日終了) 改築内容：旧宿直室→館長室、旧第3閲覧室→玄関、表門設置。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1988.12	北城内に尼崎市立中央図書館着工。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』
1990.7	尼崎市立中央図書館竣工。開館。	尼崎市立図書館『60年のあゆみ』

書館に対する思いがあったことである¹⁸⁾。山下は、神戸市立中央図書（1947年8月-58年10月）を退職し、尼崎市立図書館の館長（1958年10月-67年6月）に就任している¹⁹⁾。尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』の決裁（1957年11月9日）には、次のように表記されている。

尼崎市立図書館新築工事／上記のことについて模型制作致します。表記図書館新館略設計（本設計は発注見込み）完了いたしました。これに採用している円型構造は本市に於いて初めての試みであるので模型を作成の上検討いたしたい。²⁰⁾

これにもとづいて、尼崎市は芦屋市岩園町の山根工務店に制作費18,000円、1957年12月27日から約2週間で1/200模型の制作を依頼している。この時期に円形図書館が計画されたと推測される。1957年、山下は神戸市立中央図書館に勤務しており、図書館の開館およそ半年前に就任したことになるが、設計段階から関与していたのかもしれない。ここで作成された模型は、のちまで館長室に置かれていたという²¹⁾。最終的に「図書は、本来四角いものだから円形では納まりが悪かろう」という図書館内部の意見により²²⁾、円形案が実施設計に移ることはなかった²³⁾。

二つ目は、1957年12月20日発行の『市報あまがさき』によると、当時、変形建築が流行していた。その事例として、東京都立日比谷図書館（【写真3】）は正三角形の平面（【図3】）であり、大阪府八尾市の南山本小学校は八角形、埼玉県秩父市の高篠中学校は六角形となっている²⁴⁾。

尼崎市の図書館に円形を採用するという計画があったことは、時流にのると同時にシンボリックな意味もあったのかもしれ

ない。尼崎市における円形建物については、その後1960年1月竣工の尼崎市立浦風小学校（【写真4】【図4】）で実現した²⁵⁾。

3. 尼崎市立図書館のNAU大阪支部案

尼崎市がNAU大阪支部に設計を委託する際、尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』の決裁（1957年11月22日）には次のように表記されている。

尼崎市立図書館新築工事、設計委託の件／表記、図書館新築工事の設計は急を要しますが、現在工事中の現場もあり、学校関係、交通局等の設計を急がれて現在人員では到底間に合いかねます。特に当工事に採用する円型構造は本市に於いて初めての試みでもあり此の際文化会館の設計者建築家集団大阪支部に下記の条件により予算範囲にて設計を委託してよろしいか。²⁶⁾

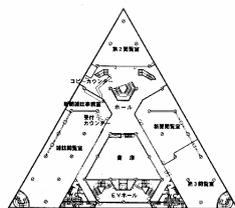
このことから、尼崎市は図書館計画の初期段階から円形の図書館に決めていたと推測される。しかしながら、NAU大阪支部から出された案は、円形ではなかった（【図5】【図6】）。

NAU所属の平松義彦（1905-80年）は、1956年に習志野高等学校で円形校舎を設計している²⁷⁾。そのことを考慮すると、NAU大阪支部は円形について何らかの知識を持ち合わせており、そのため円形を避けたのかもしれない。

NAU大阪支部は1957年12月12日に建設委員会を開いている。尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』1958年1月7日付の決裁にはNAU大阪支部から提出されたのは9案であり、2月18日付の決裁には14案となっている。提出案の審査については、滝澤真弓（大阪市立大学）が手がけており、尼崎市が審査委託料として10万円を贈呈している。滝澤の審査の際、



【写真3】東京都立日比谷図書館
撮影：船曳悦子 2004年9月25日



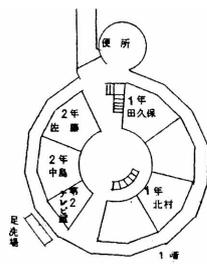
【図3】東京都立日比谷図書館平面図
出典：東京都立中央図書館『事業概要』2003年



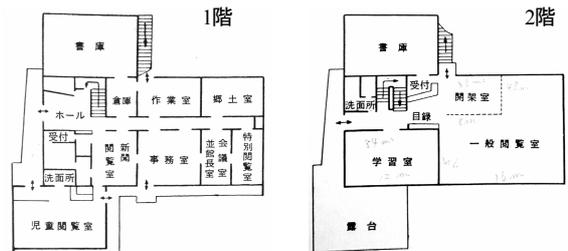
【図5】尼崎市立図書館パース
所蔵：尼崎市立中央図書館（『市報あまがさき』第195号、第2面、1958年10月20日にも掲載）



【写真4】尼崎市立浦風小学校
出典：尼崎市立浦風小学校『浦風小学校創立20周年記念誌』1980年



【図4】尼崎市立浦風小学校平面図
出典：尼崎市立浦風小学校『浦風小学校創立三十周年記念誌』1990年



【図6】尼崎市立図書館（平面図）
出典：『尼崎市立図書館』1959年

尼崎市立図書館設計計画と新日本建築家集団大阪支部

NAU大阪支部からどのような基本設計図が提出され、審査の経過等については現時点では史料の発見に至っておらずわからない。尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』1958年2月18日付の決裁に添付されている基本設計図は、筆跡から図面作成者は田代正尚と思われる²⁸⁾。当時、田代は尼崎市建築課（後に尼崎市建築課住宅課第一係）に勤務しており、図書館の担当であったし、NAU大阪支部の会員でもあった。作成された基本設計図とNAU大阪支部に45万で設計委託²⁹⁾された実施設計図の内容とはほぼ一致する。

4. 尼崎市立図書館設計計画と新日本建築家集団大阪支部

NAU大阪支部は、47年11月増田幸次郎（大阪市港湾局）や渡辺禎己（大阪市住宅課）らが中心となって結成された³⁰⁾。「NAU大阪支部決定綱領」³¹⁾として、2度の決定がなされている。それぞれの内容については以下のとおりである。

1.国民に奉仕する建築家になろう。2.建築文化の植民地化に反対し、民族文化を創造しよう。3.建築界の民主化を図ろう。4.内外の友誼団体と手を結ぼう。

（53年10月13日）

1.国民のために建築活動をしよう。2.建築界の民主化を進めよう。3.建築技術者の生活を守り、地位を向上に務めよう。

（56年1月8日）

NAU大阪支部は、「国民のための建築」³²⁾の創出をめざす民主的な団体という点で文化会館設計の機会が与えられた一面もあるが、設計料や工事監理料という問題で建築家の立場を理解されないこともあった³³⁾。

NAU大阪支部と尼崎市との接点を考えるならば、阪本勝（市長：1951年4月25日－54年11月13日）と田代正尚（NAU大阪支部尼崎市役所班及び尼崎市建築課）との個人的関係が大きかったのではないかと³⁴⁾。

NAU大阪支部の設計活動は、NAU大阪支部の会員が個々の事務所でも個人の仕事として手がけることが多く、文化会館及び図書館についても共同設計方式を取り入れられていたといえども個人の負担が大きかったようである³⁵⁾。このあたりは前稿³⁶⁾で述べたNAU本部の設計活動とも共通点があるように思われる。

5. 尼崎市立図書館建設計画と戦後尼崎市の状況

尼崎市の復興は、1951年6月に六島誠之助市長から引き継いだ阪本勝市長の政策によって大きく前進する³⁷⁾。阪本は、尼崎防潮堤の建設、中央市場の整備、社会福祉制度の実現などの政策を掲げた。尼崎市は、1950年の税制改革以来、市町村民税の増徴状態が続き、財政難に直面していた。そこに尼崎防潮堤

の建設費5億円の支出が重なり、1952年、増収案として市民税源泉徴収の方針を打ち出した³⁸⁾。しかしながら、この方針は、尼崎地方労働組合連絡協議会などによって反対され、労働組合側と市の間で交渉が行われた。その結果、労働組合側が自主的に納税組合を結成し、納税に協力すること、完納者への直接還元と社会施設建設による間接還元を行うことで合意³⁹⁾、前述したように協議会に始まり、文化会館が建設されるに至った。

当初、文化会館の同敷地には市庁舎が建設される予定であったが、図書館に計画変更されている。これは文化の向上を目指した阪本勝市長のアイディアだったという⁴⁰⁾。その後、阪本が兵庫県知事となり、薄井一哉市長に引き継がれた⁴¹⁾。

おわりに

戦後、地方都市尼崎に創出された、市民のための空間であった尼崎市文化会館と尼崎市立図書館の背景には、戦後工業都市として新たに出発することをめざし、尼崎を支えた労働組合、市民の文化、教育の向上をめざした尼崎市、そして、「NAU崩壊」後も引き続き関西を中心に活動を続けていたNAU大阪支部、これら三者の個人的な関係も含めた思惑の一致が感じられる。「NAU崩壊」と報じられる中であって、地道に活動を続けたNAU大阪支部にとって尼崎市の文化の中心となるべく文化会館と図書館が建ち並ぶ空間の実現は、戦後初期日本において新しい環境形成の事例の一つとして特筆に値すると考える。

謝辞

本稿作成にあたり、宇都宮隆夫氏、羽間美智子氏、藤井千年氏、松岡広之氏、松井昭光氏、辻柏氏、西尾弘之氏、辻早智子氏に貴重なご意見をいただいた。また、尼崎市立地域史料館、尼崎市立図書館、東京都立日比谷図書館、NPO法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫には資料調査に際しご支援を賜った。記して謝意を表します。

註

- 1) 浜口隆一「現代建築史」『新訂建築学大系6近代建築史』彰国社、1963年。大川三雄「NAUと戦後の建築運動（1945～60）」『現代建築の軌跡』新建築社、1995年。
- 2) 尼崎市建築課「尼崎市立図書館新館工事、設計委託の件」『工事関係書（市立図書館新館工事）』、決裁1957年11月22日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
- 3) 拙稿「尼崎市文化会館建設計画と新日本建築家集団大阪支部—新日本建築家集団（NAU）の設計活動について(2)—」『平成16年度日本建築学会近畿支部研究報告集』第44号、2004年6月、pp.1053-1056。
- 4) 『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』、尼崎市立地域研究

- 史料館蔵。
- 5) 「社会公共福祉施設対策協議会会員名簿」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 6) 「会館建設の経緯」『尼崎市文化会館（仮称）のメモ』総同盟尼崎地方協議会、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 7) 「文化会館と総合庁舎豪壮なビルニツ 建設決定」『市報あまがさき』第80号、第1面、1953年10月15日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 8) 「第10回尼崎市施設対策協議会協議内容」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1953年8月7日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 9) 「第13回尼崎市施設対策協議会（第3回建設委員会）協議内容」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1953年9月9日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 10) 「第15回尼崎市施設対策協議会協議内容」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1953年10月19日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 11) 「今西茂雄の作品 尼崎文化会館設計について」『建築と社会』第35巻第6号、1954年6月。
 - 12) 「第18回尼崎市施設対策協議会協議内容」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1953年12月9日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 13) 「第20回尼崎市施設対策協議会協議内容」『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1954年1月19日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 14) 新日本建築家集団大阪支部「市民の要望を担って共同で－尼崎文化会館の設計－」『建築をみんなで』日刊建材新聞社、1956年。
 - 15) 宇都宮隆夫氏の筆者への談話による、2004年11月5日、神戸。
 - 16) 「円型鉄筋三階建の計画 文化会館の南に図書館移転」『市報あまがさき』第172号、第1面、1957年11月5日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 17) 辻柏氏の筆者への談話による、2004年11月6日、尼崎。
 - 18) 藤井千年氏の筆者へのメールによる、2004年10月31日。
 - 19) 「山下栄先生年譜」『山下栄図書館論集』、『山下栄図書館論集』刊行会、1985年。
 - 20) 尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』の決裁（1957年11月9日）
 - 21) 註18に同じ。
 - 22) 同前。辻早智子氏筆者への談話による、2004年9月5日、尼崎。
 - 23) 註17に同じ。
 - 24) 「あれこれ 変形建築」『市報あまがさき』第175号、第1面、1957年12月20日、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 25) 註17に同じ。
 - 26) 尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』の決裁（1957年11月22日）
 - 27) 平松義彦設計事務所『追悼 平松義彦』1981年。
 - 28) 註17に同じ。
 - 29) 尼崎市建築課『工事関係書（市立図書館新館工事）』、尼崎市立地域研究史料館蔵、1958年6月19日付の決裁添付書類に、1958年6月8日の尼崎市図書館新築工事設計委託料寄託文分として請求書に示されている。
 - 30) 松井昭光、垂水英司「戦後の建築運動史2」『建築と社会』1971年。
 - 31) 同前。
 - 32) 「尼崎文化会館の建設計画進む」『NAU OSAKA NEWS No.17 復刊1号』1953年9月1日、NPO法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫所蔵。
 - 33) 飯田清次郎（NAU大阪支部）が薄井一哉（尼崎市市長）へ宛てた手紙。工事監理料について理解を求めた。『尼崎市社会公共福祉対策協議会綴』1955年1月、尼崎市立地域研究史料館蔵。
 - 34) 註15に同じ。阪本勝（1899-1975年、1923年東京帝国大学卒業）田代正尚（?-1995年、1945年東京大学卒業）
 - 35) 註15に同じ。
 - 36) 拙稿「八幡製鉄労働会館建設とNAU設計委員会－新日本建築家集団（NAU）の設計活動について－」『岐阜市立女子短期大学研究紀要』第53輯、2003年3月、pp.241-246。
 - 37) 「市政の『夢』と世界観」『尼崎の戦後史』尼崎市、1969年。
 - 38) 尼崎市立地域研究史料館（編）『尼崎地域事典』尼崎市、1996年。
 - 39) 同前。
 - 40) 元尼崎市教育長福島輝喜氏の談話による。
 - 41) 「阪本市長知事選へ」『尼崎の戦後史』尼崎市、1969年。

（提出期限 平成16年11月26日）